

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒870-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 医学部 衛生学講座
TEL (093) 691-7429
FAX (093) 691-9341

発行責任者：地方会長 川 本 俊 弘

(題字：倉 恒 匡 徳 筆)

九州地方会長就任挨拶

川 本 俊 弘

(産業医科大学医学部 衛生学講座)



このたび日本産業衛生学会九州地方会長を拝命しました産業医科大学医学部衛生学講座の川本俊弘です。地方会長の仕事は日本産業衛生学会本部のもとにあって、地方における産業衛生学研究の推進、産業衛生の発展と振興、さらには会員の親睦のために努力をすることと理解しております。歴代の九州地方会長である児玉泰先生（産業医科大学）、松下敏夫先生（鹿児島大学）、大久保利晃先生（産業医科大学）、二塚 信先生（熊本大学）、田中勇武先生（産業医科大学）の敷かれたレールを尊重し、

加えて時代の変化を見据え、適宜の対応を行ってまいりたいと考えております。

九州地方会は会員数が781名（平成21年 5 月11日）であり、関東地方会、近畿地方会について3 番目に大きい地方会となります。私が平成 5 年に児玉地方会長の下で幹事を務めさせていただいた頃の会員数は400余名でしたから、この15年で会員数が2 倍近くにも増えたことになります。地方会とはいえ、会員数では小さな全国学会を上回っており、さらに会員が年々増加しており、その舵取りを引き受けるに当たり責任の重さを痛感しております。

政治・行政の世界では「地方の時代」、「地方の荒廃」ということが言われ、地方と中央の関係が様々な角度から取り上げられています。一方、産業・経済の世界では国際化（Globalization）・国際競争力という言葉が随所で聞きます。科学・医学の世界においても国際化あるいは国際競争力が近年重要視されてきており、研究の選択と集中が進んでいます。私がこの世界に入った30年前には各学会には地

方会組織が存在し、活動の中心をなしていました。そして、それをまとめる全国学会が存在していました。ですから新人研究者はまず地方会で研究成果を発表して指導を受け、それから全国学会で発表するようにと教えられていました。しかしながら、現在は全国学会が当時の地方会に当たり、国際学会が当時の全国学会になっているようで、地方会活動はだんだん縮小される傾向にあります。公衆衛生学や産業衛生学はその学問的基盤が地域にあり、地域無くしては研究が成り立ちません。その意味で日本産業衛生学会九州地方会が九州・沖縄地区に与える影響は大きく、また九州地方会には九州・沖縄地区への貢献が求められています。九州地方会は学術的知見に立脚し、地域と共存すべきものであると考えております。

九州地方会では学術面の発展、地域との共存のみならず、地方会会員間の交流と若手の育成も重要な課題です。これについてもこれまで以上に努力するつもりです。

これから2 年間、長いようで短い期間かと思いますが、九州地方会の発展のために全力を尽くしたいと考えております。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

研究紹介・学会報告

第82回日本産業衛生学会開催報告

第82回日本産業衛生学会事務局長 明星敏彦
(産業医科大学 産業生態科学研究所 労働衛生工学)

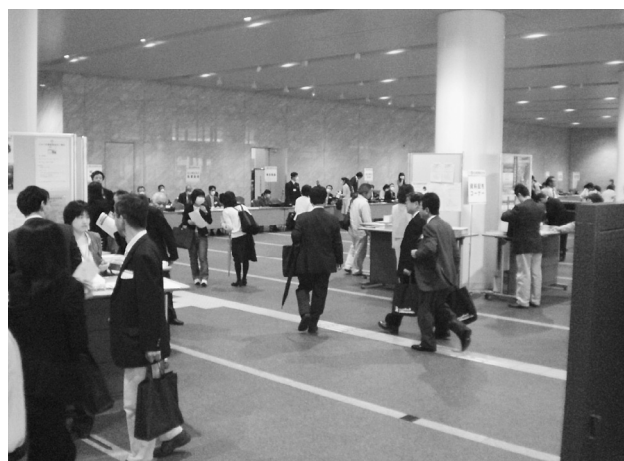


第82回日本産業衛生学会(企画運営委員長 田中勇武産業医科大学教授)を、福岡市博多区にある福岡国際会議場において、本年5月20日から23日まで、滞りなく開催できまして、事務局としてはひと致しております。これも一重に九州地方会の皆様のおかげであると感謝いたしております。

今回のメインテーマは「超高齢社会を迎える日本 その産業保健戦略は」でメインシンポジウムも同名のタイトルで九州地方会の神代雅晴会員により企画進行された。シンポジウムは15テーマが企画されたが、そのうち九州地方会員が責任を持って進行したシンポジウムは「特殊健診における生物学的モニタリングの現状と課題(司会・担当市場正良会員)」、「働くことの価値そして健康効果—産業保健は社会参加の促進にどのように寄与できるか—(司会・担当東敏昭会員・住徳松子会員)」、「現代人の健康と食生活—食文化変容が産業労働の根幹を変える—(担当福光ミチ子会員)」、「各世代の労働者に見られるメンタルヘルス不調の特徴と対策(司会・担当永田頌史会員)」、「工業用ナノ材料のハザード・リスク評価(司会・担当森本泰夫会員)」、「職場における喫煙対策、「これまで」と「これから」(司会・担当大和浩会員)」、「産業保健における睡眠障害対策の重要性—労働災害防止と健康増進の新たな視点(司会津田徹会員)」、「これからの日本産業衛生学会専門医制度のあり方(担当森晃爾会員)」、「職場のメンタルヘルス最前線—対策と効果評価—(司会・担当廣尚典会員)」、「これからの医療従事者の産業保健:多様な課題とグッドプラクティス(司



福岡国際会議場前の学会看板と
インフルエンザに関するお知らせ



福岡国際会議場1階の受付の様子
受付担当はマスクを着用

会・担当堤明純会員)」、「超高齢社会を支える女性労働者の健康支援(司会・担当石原逸子会員・織田進会員)」と11テーマに及ぶ。九州地方会員あつての学会となった。

今回の学会開催にあたっては、春先にメキシコから始まった新型インフルエンザに悩まされた。事務局スタッフのマスク着用、入り口や手洗いの消毒液準備、新型インフルエンザ対策委員会も設置した。

5月20日(水):午前10時から総会がメインホールで開催されスタートした。午後は、奨励賞受賞講演3題があった。このうちの1つは、「産業現場における粒子状物質吸入による肺への影響(受賞者大神明会員)」であった。特別講演は、「生涯現役への挑戦(加藤一二三日本将棋連盟九段)」で、満員の会場で行われた。別会場では、ポスター展示発表の示説がなされた。

5月21日(木):シンポジウム10テーマと一般演題の口演とポスター発表が11会場に分かれて開催された。シンポジウムは、どのテーマについてもほぼ満席となった。

本学会では、講演要旨集について、CD-ROM版のみとした。冊子版については、その持ち運びに難渋する重量であるため作成を取りやめた。替わりとして、九州地方会学会のように、各講演会場入り口に、講演要旨を置き、参加者が聴きたい講演要旨を自由に選択収集できるシステムとした。自分に必要な講演要旨だけをピックアップできることから、おおむね好評であった。

夕方から、会場をホテルオークラ福岡に移して懇親会をほぼ満員の盛況で開催した。各県の九州地方会理事から推薦された九州と沖縄のおいしい飲み物とその肴を賞味いただいた。焼酎も地元勧めのおいしい銘柄を取り揃え、肴は県名が掲げられた屋台を設けて、ご賞味いただき参加者からは大変好評であった。

5月22日(金):シンポジウム5テーマと4部会フォーラムが開催され、引き続き一般演題の口演とポスター発表が11会場で開催された。また、緊急ミーティング「新型インフルエンザについて」も開いた。

今回の学会には、2470余名の方に参加いただきました。

23日(土)の特別研修会は280余名と予定した定員のほぼ半数でしたが、無事終了できて肩の荷を下ろしているところ です。

終わりにになりましたが、今一度、学会の運営を支えていただいた九州地方会の皆様、企画運営にご尽力いただいた顧問、監事、企画運営委員、プログラム委員及び実行委員とその教室員の皆様方に慰労を申し上げますと共に、衷心より感謝申し上げます。

平成21年度日本産業衛生学会 九州地方会学会開催を終えて

青 木 一 雄

(琉球大学 医学部 衛生学・公衆衛生学分野)

平成21年度日本産業衛生学会九州地方会学会は、平成21年 6 月26日(金)、6 月27日(土)の2日間、沖縄産業支援センターにて開催いたしましたので、学会開催を終えて一言、ご挨拶をしたいと存じます。本学会は、今年の春、私が大分大学医学部から琉球大学医学部に転任早々、次回の本学会を沖縄で開催してほしい、との依頼があり、転任早々で準備が間に合うか不安の中、お引き受けいたしました。案の定、準備は、直前までドタバタして、九州各県からお見えになる先生方にご不便や失礼なことになるのではないかと危惧しておりましたが、関係各位のご協力により大きなトラブルもなく、無事に地方会学会を終えることができました。九州地方会の会員の皆様方のご協力、ご支援により、九州各県を中心に81人の学会員の方々の参加を得ることができました。ご参加いただきました会員諸氏に衷心よりお礼申し上げます。また、日本産業衛生学会の会員の方々のご参加の他、特別講演と3つの教育講演には、沖縄県の医師、保健師、看護師、などの産業保健関係者を中心に、延べ158人に参加いただきました。この場を借りて、業務ご多忙のおり、九州地方会学会にご参集いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。

さて、本年度の九州地方会学会は、学術集会(特別講演1演題、教育講演3演題、一般口演16演題)、及び総会を含めた学会関連行事(理事会、代議員会、懇親会)、並び

に自由集会(日本産業衛生学会九州地方会産業衛生技術部会、日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会・沖縄県産業看護研究会交流会)を開催いたしました。特別講演は、(財)放射線影響研究所理事長(産業医科大学元学長)の久保利晃先生に「産業保健の未来に向けて」の講演をしていただき、これまでの産業保健の現状を踏まえ、これからの産業保健活動の重点課題、留意点にも言及していただき、産業医の先生方のみならず、産業保健関係者に非常に示唆に富むご講演をいただきました。また、沖縄県中央保健所長の仲宗根正先生に、教育講演Ⅰ「職場における新型インフルエンザ対策およびリスクマネジメント」の講演をしていただきました。仲宗根先生へ本講演のお願いをしましたのは、本年の1月でしたが、本年4月にメキシコでの新型インフルエンザの発生が報告され、本邦においても4月下旬に新型インフルエンザが発生してしまいました。そのため、仲宗根先生におかれましては、沖縄県における新型インフルエンザ対策を講ずべく、大変お忙しい中、本学会の教育講演が予定通り開催できるか危惧しておりましたが、幸い予定通り実施することができました。これまで(2009年 8 月6日現在、WHOの発表)、世界の新型インフルエンザ感染者数は、177,457名であり、うち1,462名が死亡しております。日本においても、新型インフルエンザの流行は終息する気配を見せず、新学期がはじまる9月以降、秋から冬にかけて爆発的な流行が起こるのではないかと危惧されており、引き続き気を緩めることなく、早期の的確な対応を講じる必要があると思われます。教育講演Ⅰは、新型インフルエンザ対策をそれぞれの職場で考え、迅速かつ的確に現実的な対応を取るための必要な事柄について示唆を与えていただきました。教育講演Ⅱは、佐賀大学医学部環境医学分野教授の市場正良先生に「化学物質による健康障害の防止－特殊健康診断の現状と課題」の講演をしていただきました。沖縄県では、製造業が多いわけではありませんが、産業化学物質は、土木・建設業や自動車整備業などでも使用されていますので、これらの業種では、今後の労働衛生管理を行っていく際に、大変参考になったのではないかと思います。また、教育講演Ⅲは、EAP産業ストレス研究所長(山本クリニック院長)の山本和儀先生に「職場におけるメンタルヘルス対策～Up to Date～」の講演をしていただきました。1998年より、昨年(2008年)まで、毎年3万人以上の方が自ら命を絶っており、このような状況を改善すべく、地域、職場、家庭、そしてひとり一人がメンタルヘルスに関心を持ち、「気づき」をよくし、それぞれの場で、平素より予防に向けた取り組みをして行くことが肝心です。山本先生には、このような視点より職場におけるメンタルヘルス対策の最新の知見を加え、産業保健関係者がメンタルヘルスに取り組む際の留意点やポイントについての確にお話しいただきました。さらに、シンポジウムとして、「大学における労働安全衛生管理の現状」〈司会：市場 正良先生(佐賀大学医学部環境医学分野)、シンポジスト：石竹 達也先生(久留米大学医学部環境医



学講座)、黒田 嘉紀先生(宮崎大学医学部公衆衛生学分野)、堀内 正久先生(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科環境医学分野)、永田 智久先生(産業医科大学産業医実務研修センター)を実施し、各シンポジストからそれぞれの大学の産業医活動を中心として労働安全衛生管理の現状の報告をいただき、フロアの先生方を含めて、ある意味、特殊な事業場であると言っていることができる大学における労働安全衛生管理の向上にむけての活発な討論が行われました。このシンポジウムから得られたことを各大学の労働安全衛生管理にひとつでもふたつでも活かすことができれば、本シンポジウムを企画した目的の一端を果たすことができるのではないかと思います。

また、本年度の九州地方会学会の一般口演(16演題)ですが、産業保健の現場の身近な問題から最先端のナノ粒子の健康影響の問題まで、幅広い研究発表が行われました。討論も非常に活発に行われ、会員諸氏には非常に有意義であったのではないかと思います。学会の良否は、一般口演の良否であると言っても過言ではありません。そのような点から考えますと、本学会の一般口演は、非常に興味深い演題が多く、今後のさらなる研究の発展が望まれるものが多く、来年(平成22年度)の九州地方会学会(北九州市); 学会長産業医科大学産業生態科学研究所 教授 東敏昭先生)での研究成果の発表が待ち望まれます。

最後になりましたが、本学会には、日本産業衛生学会九州地方会の前会長の田中勇武先生、現会長の川本俊弘先生、はじめ九州地方会理事の先生方、代議員の先生方、会員の先生方に格別なご支援をいただきました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。また、特別講演、教育講演を共催していただきました沖縄産業保健推進センター、ご後援をいただきました沖縄県医師会他、沖縄県内のメディア各社に心よりお礼申し上げます。

第20回韓日中産業保健学術集談会報告

黒木 和志郎、東 敏昭
(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学)

去る8月27日(木)から29日(土)にかけて、韓国ソウル市竜山区(ヨンサング)梨泰院(イテウォン)のHotel Capitalにて第20回韓日中産業保健学術集談会が開催されました。当初は6月3日から5日の予定でしたが、新型インフルエンザの流行で、上記日程に延期され、開催されました。日本からは56名、韓国85名、



写真1 開会式で主催国として歓迎挨拶をされる Byung Soo Choi 氏



会場風景

中国40名と200人近い参加者がありました。本会議は1984年に日本と韓国の産業保健関係者が立ち上げ、2000年に中国が加わり、本年で20回目という節目を迎えました。今回は、「東アジアおよび全ての働く人の健康増進－Health Promotion for East Asian Workers and All－」をテーマに、キーノートスピーチ3演題、ワークショップ5演題、口演17演題、ポスター69演題が盛況のうちに開催されました。

大会の前日(8月27日(木))にワークショップが開催されました。ワークショップでは1つのテーマを3回の集談会にわたって取り上げ、昨年よりトータルヘルスプロモーション(THP)をテーマとし、今回で2回目の開催となりました。5演題が発表され、日本および韓国では、生活習慣や喫煙対策に関しての実践的な取り組みに関する報告があり、中国は、THPに関しての基礎的な報告がありました。

8月28日(金)に開会式が行われ、本会会長である大韓産業保健協会会長の Byung Soo Choi 氏から開会の辞(写真1)、Korean Occupational Safety and Health Agency(KOSHA)理事の Min-Ki Noh 氏より祝辞が述べられた後、京都工場保健会理事の池田正之氏より今年、逝去された京都工場保健会名誉所長の乾修然氏を偲び、追悼の黙祷が行われました。

開会式に続いてキーノートスピーチが行われました。日本側は、今年より国際産業保健学会(ICOH)会長に選任された労働科学研究所の小木和孝氏から、国内のネットワークを活用した産業保健の共有についての報告がありました。韓国カソリック大学の Hyun-wook Kim 氏はアスベスト関連呼吸器疾患について報告があり、中国、中山大学の Wei-Qing Chen 氏からは、筋骨格系障害(MSDs: Musculoskeletal disorder)における職業上のストレス影響と対処様式についての調査研究の報告がありました。

キーノートスピーチに引き続き、ポスター発表が開催されました。今回よりポスター発表に先立って、メイン会場にてポスターの紹介口演が開催されました。発表方法は、発表者各自が、3分以内で紹介口演を行うものでした。ポスター発表は、計69演題と前回よりも多くの登録がありました。それぞれのポスターの前では活発な質疑応答が行わ

れ、参加者間の人的交流を深めるよい機会となっていました。

本会では、ポスター発表を促進するため3人のポスターアワードが選出、授与されており、下記のように選出されました。The best presentation award (表現賞) : 幸地勇 (産業医科大学)、The most innovative award (先端的研究賞) : Ling Mao (Shanghai Occupational Diseases Hospital)、The most integrative award (実践応用賞) : Ki-Woong Kim (KOSHA)。これらの優良ポスターの授賞式は、後述する懇親会のメインイベントの一つとなっています。ポスター発表後、口演発表が行われました。口演発表は3会場に分かれ、計17題の口演が行われました。様々な内容の質問やコメントがあり、活発な討議が各会場で展開されていました。

8月28日(金)の夕刻より懇親会が本会場である Hotel Capital にて行われた懇親会には150名以上が参加し、韓国の民族音楽、舞踊が披露され、韓国の文化を満喫できました。また各国の代表により、それぞれの国の歌を歌うという企画も行われ、大いに盛り上がりしました。

8月29日(土)に開催されたシンポジウムでは、産業ストレスをテーマとし、日本からは、東京大学大学院の川上憲人氏、産業医科大学の廣尚典氏、福岡産業保健推進センターの織田進氏、韓国からは、延世大学の Sei-Jin Chang 氏、梨花女子大学の Jae-Hong Ryoo 氏、Inha 大学病院の Shin-Goo Park の各氏が発表を行い、議論を展開しました。

ワークショップを含め3日間という短い期間でしたが、大盛況のうちに幕を閉じました。新型インフルエンザの影響で、日程延期はあったものの、200人近くの参加があり、各国ともに活発な意見交換がされていました。特に今回は20回目という節目の年でもあり、非常に意義のあるものになりました。第21回は、栃木県宇都宮市で2010年6月10日から12日にかけて開催される予定です。是非、多数の方のご参加を期待しております。

野村茂先生のご逝去を悼む

本会名誉会員 松 下 敏 夫
(鹿児島大学名誉教授)

本会名誉会員の野村茂先生(熊本大学名誉教授)には、がんとの闘病生活を長く続けておられましたが、薬石効なく2009年7月26日逝去されました。享年89歳でした。

先生は、1921年に静岡市で出生され中国瀋陽で育ち、満州医科大学を卒業後、1921年創立の労働科学研究所の職業病研究室でわが国における職業病研究の先駆者である久保田重孝先生に師事され、その後、信州大学及び名古屋大学助教授を経て1960年に39歳の若さで熊本大学医学部公衆衛



生学講座教授に就任して教育・研究及び専門を生かした社会的活動に大きな足跡を残され、1987年に定年退官され名誉教授になりました。その後は古巣の労働科学研究所の主幹研究員や昭和大学医学部客員教授などを務められ、闘病生活中にも旺盛な執筆活動

を続けておられました。

この間、日本産業衛生学会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本農村医学会などの理事・幹事など役員として活躍され、第55回日本衛生学会総会会長や第22回日本農村医学会会長などを務められ、また、労働省・厚生省・環境庁・熊本県など行政の各種委員会委員などとしても大きな役割を果たされました。

先生はクリスチャンで大変温厚で学究肌のお人柄で、その博識ぶりは「百科事典」と評されるほどでしたが、学問的には大変厳しく、「現場から問題を取り上げて、研究室で検討し、その成果を現場に生かすべく考え行動する」ことをモットーにされ、緻細・緻密な論理の展開をされ、多くの優れた業績を挙げられました。熊本時代には、産業現場や地域に根ざした様々な課題、例えば、水俣病や鉱山の砒素中毒、炭塵爆発とCO中毒、クロムやタールによる職業性肺がん、農村婦人の貧血対策などにも積極的に取り組み、大きな足跡を残されました。

先生が重点的に取り組まれた産業保健領域では、特に職業性皮膚障害に関してわが国における草分けとして「日本の職業性皮膚障害」「職業性皮膚障害とその対策―労働衛生管理のために―」「産業皮膚科学」などを執筆されて皮膚毒理学の体系化へと研究を進展されたのみならず、早くから職業性アレルギーや免疫中毒学を発展させることの重要性を指摘され、本会の職業性アレルギー研究会(現アレルギー免疫毒性研究会)の代表世話人などとしてこれらの領域の研究に関しても内外で指導的役割を果たしてこられました。

昭和53年度から59年度まで2期6年間は本会地方会長を務められ、「日本産業衛生学会九州地方会史」(平成11年)にも記録されているように、この間の会員の増加や各種研究会の開催、産業看護職者の交流・研究会の飛躍的発展などに指導的役割を果たされました。

さらに、日頃、「歴史から学ぶことの大切さ」を力説しておられた先生は、歴史的考察や資料収集も精力的に進められ、本会の労働衛生史研究会の代表世話人を務められたほか、本会70年史編集委員会委員長を務められ、「日本の産業保健―あゆみと展望―」(平成12年)の発行に尽力さ

れ、「北里柴三郎と緒方正規」「産業医学100話」「産業医学いまむかし」など多くの歴史的著作も残されました。

先生のこれらの業績に関しては、勲三等旭日中授章を始め、水俣病研究班の一人として朝日賞、労働衛生に関して労働大臣功績賞及び功労賞、中央災害防止協会顕功賞、久保田賞など多くの賞を授賞しておられます。

先生は、熊本大学退官の最終講義で王陽明の伝習録の「浅くとも涸れることのない井戸でありたい」という言葉を引用し、「私もそのようでありたい」と結んでおられますが、先生の生涯は、後学の我々にとって、満々と水をたたえて生命に活力を与える井戸であると申してよいでしょう。

ここに、先生の生前のご功績とご指導・ご鞭撻に衷心より感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

失業者と産業保健

石 竹 達 也

(久留米大学医学部 環境医学)



はじめに

昨年の米国サブプライムローン問題に端を発した不況は、わが国においても雇用情勢を急激に悪化させ、派遣労働者や期間労働者等の契約打ち切りが相次ぎ、失業者は増大している。一方、労働力確保の観点からみれば失業者は貴重な『就労待機者』であり、失業中の健康管理や疾病管理が適切に実施されることで、よりスムーズな再就職が期待される。しかし、現行の産業保健システムは、原則的に就業者を対象としており、失業者は定期健康診断などの保健サービスを受受できない状況にある。

1. 失業の健康影響

失業と健康影響に関する研究は、これまで欧米の研究者を中心に行われてきた。現時点では失業の健康に対する負の影響として大きく3つ挙げている。

- 1) 高血圧や心筋梗塞、代謝性疾患の増加などの身体的影響、
- 2) 自尊心の低下、不安、うつ状態の増大、自殺企図の増加などの心理的影響、
- 3) 喫煙や飲酒の増加などライフスタイルの変化や地域社会との関係喪失などの社会生活への負担増である。

失業が健康に影響を及ぼすのか、あるいは健康障害があることで失業しやすいのかとの因果については議論されるところではあるが、上記2) 3) については失業による健康影響であることを示すエビデンスが多く報告されている。

2. 失業者を取り巻く健康セーフティネット

失業に伴い健康保険の資格を喪失するため、失業者の自

己責任において任意継続被保険者の手続きを取るか、国民健康保険に新たに加入するかのどちらかである。失業が長期に及べば経済的基盤が極めて不安定となり、継続して医療保険に加入するのは困難な状況にある。実際1年以上の長期失業者の割合は30%を超えており、再就職状況は大変厳しい。現行の地域保健や産業保健制度の下では失業者の健康管理が十分に実施されているとはいえない。今後も失業者数の増大が予想されるなか、『失業者は就労待機者である』という視点に立った健康面のセーフティネット構築への期待は大きい。これまで自己責任として個人に任されていた失業中の健康管理について、何らかの公的支援が必要である。既存の産業保健制度を利用するひとつの案としては、現在全国347か所に設置されている地域産業保健センターの活用があり、ある一定期間に限って健康診断、健康相談、保健指導等のサービス提供が有用ではないかと考える。

3. 「失業と健康」問題への取組み

ICOH（国際産業保健学会）において、科学委員会の一つとして「失業と健康（Unemployment and Health）」委員会が1999年に発足した。この科学委員会では、1) 失業の健康影響、2) 不安定雇用と就業者への健康影響、3) 企業再構築における企業の社会的責任（CSR）、4) 労働市場と健康政策における失業と健康に関する協調、を主なテーマとして活動している。これに先立ち1998年に「失業と健康」の作業部会の第1回会合がパリで開催され、各国における失業による健康影響に関して発表討議された。その後は総会開催時および不定期に専門家会議が開催されている。2006年にはこの科学委員会の名称が、“Unemployment, Job Insecurity and Health”に変更されて、失業だけでなく不安定雇用（非正規雇用）の健康影響も大きなテーマとなった。わが国では2001年に“失業と健康”研究会が発足し、日本産業衛生学会九州地方会の研究会として認定され、現在まで支援を頂いてきた。失業者を『就労待機者』として、次の労働への備えをするための健康保持をいかに行うかを、経済、法律、心理、行政などの面から捉えて総合的に討議していくことを目的に活動を行ってきた。定期的にニュースレター（<http://www.med.kurume-u.ac.jp/med/envi/study/unemploy/newsletter.htm>）を発行し、このテーマに関する情報発信を行ってきた。幸い2008年には日本産業衛生学会に非正規雇用研究会が設立された。失業と深く関連する非正規雇用労働者の健康と労働に関する研究を学会として取り組むことが始まった。

おわりに

失業は健康決定要因（Social Determinants of Health）の一つである。失業給付や再雇用のための経済的セーフティネットの充実はもちろんであるが、『失業者は就労待機者である』という新しい視点に立って、地域保健と産業保健制度の狭間にある失業者をカバーする健康面でのセーフティネットの構築が必要不可欠である。

部会報告**九州地方会産業医部会活動報告****産業医部会長 田 中 雅 人**

(トヨタ自動車九州株式会社)

平成21年度より、市場部会長から、私が部会長を引き継ぐこととなりました。どうぞよろしくお願いします。

九州地方会産業医部会での活動は、年1回の総会開催と秋に研修会としての健康管理研究会の開催があります。

昨年の健康管理研究会は12月13日に、法改正により実施が開始された特定健診・保健指導をテーマとして開催しました。モデル事業の段階から取り組んでおられる福岡労働衛生研究所の山本先生、医師会と連携して特定保健指導管理システムを構築されている産業医科大学公衆衛生学の松田先生に講演をしていただき、実施後の状況を踏まえての問題点について議論を行いました。

今年度の総会は6月27日に沖縄での地方会学会の際に開催しました。そこで役員改選の承認と秋の研究会の企画について話し合いました。



九州地方会の役員は、部会長の田中(トヨタ自動車九州)の他、副部会長として弥富先生(SUMCO)、部会幹事の増員が承認されました。全国の産業医部会での九州地方会幹事としては、織田先生(福岡産業保健推進センター)、藤代先生(九州電力)、弥富先生(SUMCO)が継続します。

秋の研究会は12月に福岡市で開催予定です。福岡産業保健推進センター、産推研九州地方会と共催予定です。日医の認定も申請します。今年3月に改訂された「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引」を中心として、職場復帰支援の実施上の問題点や効果的な取り組みについての議論や情報交換の機会となるよう企画したいと思います。詳細は追ってお知らせします。医部会員以外の方の参加も歓迎します。

なお産業医部会は日本産業衛生学会の部会であり、入会するには、学会とは別に入会手続きをしなければいけません。入会されますと、会報が年に3回送られてくるとも

に、自動的に地方会産業医部会員となります。このことに関して、産業医の方でも学会と部会や地方会の区別がいまいな方がいらっしゃるようです。九州地方会では80数名の参加を頂いていますが、会員の数から考えればもっと多くてもいいかと思います。

今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

産業看護部会活動報告**産業看護部会副会長 住 徳 松 子**

(アサヒビール㈱ 博多工場)

今年度の産業看護部会の活動は、5月に福岡で第82回日本産業衛生学会が開催されたため、例年の活動計画を若干変更し活動いたしました。具体的には、産業看護フォーラムと看護部会総会を本部会と協力の上開催し、九州地方会独自の活動としてはシンポジウム1題と学会会期終了後に産業看護特別研修会を企画開催いたしました。

産業看護フォーラムは「保健指導の目指すべき方向性」と題し、産業・教育・研究の分野のそれぞれの立場の先生方に、産業看護職の資質向上に必要なことについてご講演いただきました。全国から約450名の参加を得ることができ、産業看護職の関心の高さを実感いたしました。

特別研修会は、産業医科大学環境マネジメント学科の近藤充輔教授と中尾労働衛生コンサルタント事務所の中尾由美先生を講師にお招きし、労働安全衛生マネジメントシステム(以下 OSHMS)の変遷と看護職としての実践的な取り組み方についてご講義いただきました。産業看護職の業務は健康診断の実務や保健指導、メンタルヘルス対策がその大半を占める場合が多く、OSHMSに実質的に携わる機会は少ないと思われます。しかし、全国から100名の産業看護職にご参加いただき、産業看護職の興味の広がりを知ることができました。

また、6月に沖縄で開催された九州地方会学会では、琉球大学の等々力先生のご尽力のおかげで、沖縄県産業看護研究会の役員の方々と交流会を持つことができました。沖縄県の産業看護に従事する看護職は40名を超え、長年組織



的に活動されていることなど、交流会を通じて知ることが出来、産業看護部会からは活動内容と学会認定産業看護師制度についてご説明し、学会への入会をお勧めいたしました。九州各県の産業看護職の組織のあり方は様々ですが、各々熱心に活動されていることが今回の交流会でも大変よくわかりました。今後も各地の産業看護職の方々と交流する機会を積極的に持ち、お互いに理解を深めていくことが重要だと役員一同実感いたしました。

これからの活動としては、9月に総会と産業看護研修会を開催する予定です。年度末の2月には、産業看護継続教育システム実力アップコースを開催するべく企画を進めております。今後も産業看護部会会員のニーズに応える活動を展開するとともに、九州の産業看護職との連携を深めていきたいと考えております。

産業衛生技術部会活動報告

産業衛生技術部会幹事 伊藤 昭 好
(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)

産業衛生技術部会は、日本産業衛生学会内の専門部会として、産業衛生技術に関わる専門家相互の意見や技術交流を行うとともに、既設の部会と連携して、総合的な産業衛生活動を円滑に推進し発展させることを目的として2001年に設立されました。

全国レベルの活動としては、5月に福岡で開催された第82回産業衛生学会において産業衛生技術フォーラムを開催しました。来る12月には東京において第18回産業衛生技術部会大会開催(テーマ:メンタルヘルスのリスクコミュニケーション)を予定しております。その他、産業衛生技術専門研修会を年2回、労働衛生工学基礎講座を随時開催しております。

各地方会単位でも、独自に研修会の企画運営をすすめています。九州では、那覇で開催された日本産業衛生学会九州地方会に合わせて6月27日に地方会集会を開催しました(写真参照)。今回は、労働安全衛生技術研究会専務理



事の五十嵐晃一先生に、「労働災害防止計画に沿った今年度の安全衛生対策と化学物質対策の重点事項」という題目で講演していただきました。先生の労働行政での長い経験に裏付けられたお話により、昨年4月策定された11次防と最近の労働行政についてわかりやすく解説していただきました。またオフレコで行政の裏話なども紹介していただき、興味深く有意義な研修の場となりました。

なお、私は今年5月より、産業医科大学保利一先生から産業衛生技術部会の九州地方会担当を引き継ぐことになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事 井手 玲 子
(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学)

今年度の理事改選に伴い、産業歯科保健部会においても運営組織の体制が変更されました。加藤元先生(日本アイ・ビー・エム箱崎健康支援センター予防歯科)が理事に選出され、産業歯科保健部会の部会長に就任されました。産業歯科保健部会も藤田前部会長(神戸製鋼所)に引き続き設立から二期目を迎えることになります。九州地方会からは、監事として埴岡隆先生(福岡歯科大学)、幹事として山本良子先生(日本予防医学協会)、井手玲子(産業医科大学)が参画しております。

産業歯科保健部会の重要な会務として、日本産業衛生学会でのフォーラム、産業医・産業看護全国協議会での部会行事、その他産業歯科保健部会研修会の企画・運営があります。5月に福井で開催される産業衛生学会について、曾山善之先生(金沢医科大学)を中心としてフォーラムの準備が進められております。企画の詳細はホームページでご確認下さい。産業医・産業看護全国協議会では4部会合同セミナーとリレーワークショップが開催され、産業歯科保健部会からそれぞれ代表世話人が選出されています。そして、産業歯科保健部会の副部会長・事務局長である品田佳世子先生(東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野)を中心としたコアメンバーのご尽力でそれぞれの会務が統括・サポートされています。これらの会務を産業歯科保健部会会員数のキャパシティで全うするには少し大変ですが、一期目でそれなりの形ができ人の輪も広がってきました。これもそれぞれの担当者、特に関東地区の先生方が自身の仕事の傍ら地道に会務を担っているおかげであると考えます。各人に負担を強いていることは否めませんが、個人的には参画したからこそ得られる経験も少なくないと感じています。

地方会における産業歯科保健部会活動が積極的に行われているのは、関東地方会と東海地方会です。関東地方会では、日本産業衛生学会関東地方会例会が「働く人々の睡眠をめぐる最近の知見 ～口腔へのアプローチを含めて～」というテーマで成功裡に終了したことは記憶に新しいとこ

ろです。東海地方会では、金山敏治先生（金山歯科・岡崎労働衛生コンサルタント事務所）を中心として、現在までコンスタントに労働衛生コンサルタントとしてのスタンスも含めた産業歯科保健部会活動が積み重ねられております。最近では産業歯科保健部会独自で実地研修会を開催し、東海地方会ニュースに紹介記事が掲載されていまして、関東および東海地方会の活動については、産業歯科保健部会会員のみならず、メールでその情報が配信されていることと存じます。九州地方会においては産業歯科保健部会会員数も少なく、九州地方会の産業歯科保健部会としての活動はまだ着手できていないのが現状です。

産業歯科保健部会への入会は、ホームページ上の登録で簡単にできます。部会費は徴収しておりません。特に歯科専門職で未入会の方は、まずは産業歯科保健部会への入会をよろしくお願い致します。

研究会・研修会その他案内

平成22年度九州地方会のお知らせ

日本産業衛生学会九州地方会の平成22年度学会を北九州市で開催することとなりました。学会運営を指名されました、産業医科大学の東敏昭です。メインテーマを「地域とつながる産業保健」として、小売、サービスなどの地場産業、中小企業での産業保健の課題、産業保健サービスのモデルなどを紹介いただく方を、広く求めたいと思います。大学の他、企業外労働衛生機関、独立産業医・保健師の方々からの発表を期待しています。また、特別講演の演題・講演者についてのアイデアがございましたら、10月末までに下記の連絡先にご連絡いただきたいと思います。

会場は、JR鹿児島本線の八幡駅から徒歩7分で、周辺には、スペースワールド、自然博物館などの施設もございます。また、マルチメディア機器も充実しています。特色を生かした企画、あるいはご要望がございましたら、ご遠慮なくご連絡いただきたいと思います。

宿泊される方は、下記の懇親会場となっていますホテルや、延泊されて飲食を楽しむには黒崎駅、小倉駅に隣接したホテルが便利です。広く学生の参加も募り、楽しく元気の出る学会にしたいと思います。ぜひ、ふるってご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

開催日：平成22年 6 月 18 日(金)・19 日(土)

開催場所：ヒューマンメディア財団ビル
(北九州市八幡東区東田1-5-7)

懇親会場：北九州八幡ロイヤルホテル
(北九州市八幡東区枝光1-1-1)

事務局：産業医科大学産業生態科学研究所
作業病態学研究室
電話：093-691-7470
e-mail: ninomiya@med.uoeh-u.ac.jp

事務局代行：(株)アクシス

電話093-603-8786

e-mail: vic@axis.co.jp

九州医学会 第 6 分科会 産業医学会

— 第 7 回日本産業衛生学会 九州地方会教育講演会 —

日時：平成21年11月 1 日(日) 9:30~16:30

会場：福岡県医師会館

福岡市博多区博多駅南 2 丁目9-30

TEL 092-431-4564

日程：

(1) 9:30~10:30

第11次労働災害防止計画とCSR（更新研修）

九州電力(株) 統括産業医：藤代一也

(2) 10:30~11:30

特定健診制度の1年半の経験

—受託した地区医師会等の現状や課題について—

九州大学病院 医療情報部准教授：中島直樹

(3) 11:30~12:30

海外進出企業の新型インフルエンザ対策

独立行政法人 労働者健康福祉機構

海外勤務健康管理センター

健康管理部副部長：古賀才博

(4) 13:30~14:30

職場のメンタルヘルス対策における産業医の役割

—今後の展望を含めて—

産業医科大学 産業生態科学研究所

精神保健学准教授：廣 尚典

(5) 14:30~15:30

嘱託産業医活動のポイント

～基本的活動と最近の課題への対応～

ひの労働衛生コンサルタント事務所代表

医師：日野義之

(6) 15:30~16:30

特殊健康診断—最近の動向

佐賀大学・医学部・社会医学教授：市場正良

参加申込方法：ハガキ又はFAXにて、氏名・施設名・住所・電話番号・FAX番号を記入の上、下記申込先にお送り下さい。

申込先：〒812-8551

福岡市博多区博多駅南 2 丁目9-30

福岡県医師会内

第109回九州医師会医学会分科会

第 6 分科会（産業医学）係

FAX 092-411-6858

申込締切日：平成21年 8 月 31 日（月）

参加費：無料

※会場は260名収容可能です。定員になり次第締め切らせていただきます。

本講演は、日本医師会認定産業医制度基礎研修および生涯研修の単位（6単位）を申請の予定です。

問い合わせ先：〒812-8551

福岡市博多区博多駅南2丁目9-30

福岡県医師会内

第109回九州医師会医学会分科会

第6分科会係

TEL 092-431-4564

FAX 092-411-6858

第 21 回 日中韓産業保健学術集談会のご案内

会 期：2010年6月10日(木)～12日(土)

会 場：栃木県総合文化センター 宇都宮市

メインテーマ：全ての働く人々への産業保健サービス提供
— Extending Occupational Health
Services to All Workers —

学 会 長：武藤孝司 獨協医科大学教授

日本側代表：大久保利晃

(財)放射線影響研究所 理事長／

元・産業医科大学学長)

事 務 局 長：東 敏昭

(産業医科大学 産業生態科学研究所所長)

九州地方会理事会報告

平成21年度第1回理事会が、平成21年6月26日(金)午後13:00～14:00に沖縄産業支援センターにて開催されました。主な議題は以下のとおりです。

議題

- 1) 平成20年度第2回議事録要旨案の確認
- 2) 平成20年度事業報告および決算報告
- 3) 平成21年度事業計画・予算案
- 4) 平成22年度地方会開催について
東敏昭先生を学会長として開催予定
開 催 日：平成22年6月18日～19日
開催場所：ヒューマンメディア財団ビル
(北九州市八幡東区)
- 5) 平成23年度地方会は佐賀県で開催予定。
- 6) 平成21～22年度役員について
- 7) 名誉会員、功労賞の候補者について

編

集

後

記

産衛九州第26号をお届けします。これから2年間は熊本大学の加藤が編集を担当することになりました。よろしくお願いいたします。

九州地方会会長の就任された川本俊弘先生からは巻頭言をいただきました。九州地方会の今後の課題や展望を掲げられ、大いに鼓舞されておられます。明星先生には、さる5月に開催されました第82回日本産業衛生学会についてご報告いただきました。新型インフルエンザが心配されましたが、全国から2400名を超える参加者がありました。私も参加させていただきましたが、種々の分野の発表を聴かせていただいたことは、大きな収穫でした。

また松下敏夫先生から熊本大学名誉教授野村茂先生の追悼文をいただきました。日本の労働衛生の発展に長きにわたり貢献してこられました野村先生のご冥福をお祈りいたします。

(たか)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成21年9月1日

編集正責任者：加藤 貴彦 (熊本大学)

編集副責任者：市場 正良 (佐賀大学)

編 集 委 員：青木 一雄 (琉球大学)

青山 公治 (鹿児島大学)

石竹 達也 (久留米大学)

住徳 松子 (アサヒビール(株)博多工場)

永田 耕治 (活水女子大学)

永野 恵 (熊本保健科学大学)

東 敏昭 (産業医科大学)

山城 愛子 (沖縄県産業看護研究会)

吉積 宏治 (産業医科大学)

(五十音順)

(編集事務局連絡先)

〒860-8556 熊本市本荘1-1-1

熊本大学大学院医学薬学研究部

公衆衛生・医療科学分野 (担当：中村)

TEL (096) 373-5112 FAX (096) 373-5113

E-mail: k-public@kumamoto-u.ac.jp